

上級者になっても度々悩まされる、不要ぷよの処理方法や暴発回避に関して。
不要ぷよの処理が上手くなればなるほど、思いがけない暴発も起こりにくくなるのではないのでしょうか。

○不要ぷよの処理方法と回避方法

まず、前提として不要ぷよを出さないために必要なこととして幾つか挙げられます。

1. ネクストをしっかり確認してから配置する。
⇒ そのためにも形の知識（タブーの知識）をしっかりと頭に入れておく必要性も。
2. 自分自身が理解できるように、適度に纏まった形を組むようにする。
⇒ 本線、副砲などそれぞれの連鎖の使い方の幅を増やしていけると不要ぷよも自然に減っていきます。
3. 「受けの広い」形を組むようにする。
⇒ ぷよの色拘束が強くなく、また色の依存度が低い形を組むようにしましょう。
4. 消した後のフィールドの状況を把握できるようにする。
⇒ 副砲を打った後に時たま起こり得る状況。
妥協発火やギリギリの対応をする、など際どい場面だと回避しづらいですが
こういった意識は後々役に立つので、少しずつでも意識していくべきです。

○もし不要ぷよが出てしまったら？考えられる方法としては・・・

- ① 暴発しないように気をつけて設置する。
- ② 合体技術を使い、先読みして使用できる箇所を探す。
- ③ 単発や副砲など牽制 / 潰しに使う。

本体に繋がらない形を保ち続けてしまうと、いざ発火する際に自陣の管理が大変になってしまうため予期せぬ暴発にも繋がりがちです。

折り返し作成しようとしている際や、こちらが伸ばしに行く際などのパターンの場合でも同様です。

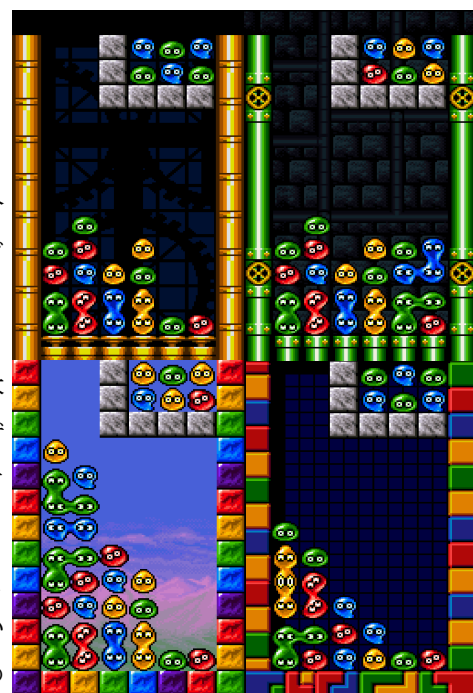
★鍵積みの例

右図は後折鍵積みの一例。

ブロック内部は現在落ちてきているぷよから NEXT2 までを表しています。
NEXT 2 までに赤色が見えない場合、また、他の色で折り返しが可能な場合などはこのように底上げを行い安定した折り返しを構築できると、潰しなどの対処にもなります。無理に赤色から伸ばそうとするのだけは避けるべき。

左下は合体に移行する形。相手に序盤の速攻がない場合は副砲を構えつつ本線を伸ばせる合体技術はかなり強いです。合体の方法は数ありますが、まずは第二折り返しで GTR の形を作成する基本の合体を習得できるようにしていけると Good です。

ぷよ通の場合、配色の偏りが大きい場合がよくあり、連鎖尾が構築しやすい、伸ばしやすい、凸凹が少なく安定している、などの意味を持つ「受けの広い形」がより良いとされます。右下は先折で鍵積みを作成した場合。連鎖尾の拡張性に優れていますが、連鎖のバリエーションがある程度ないと崩壊してしまうので注意が必要。

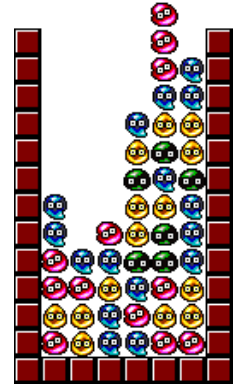


左上から、基本形、折り返し
合体、後折

○暴発回避について。

不要ぷよを上手く捌くことによって回避できる暴発。それでも、中盤の攻防によってはフィールドの情報が大きく変わってしまい、発火時の意図せぬ暴発に繋がってしまうことはよくあります。中盤の攻防などによって発生する「フィールドに残った不要ぷよ」は、「配ぷよを捌く際に発生する不要ぷよ」とまた別物ではありますが、対処の方法は上記とそこまで変わりません。

- ・色の接地面が広い場合、注意する。
→L字や一色が3個集まっている部分は特に注意が必要です。
縦3で同じ色が重なっていたらどっかしらで暴発します。
- ・自陣をしっかり把握して消える順番を覚えておく、



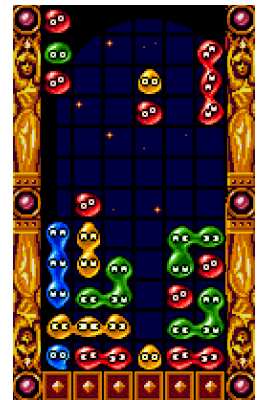
暴発箇所は幾つ？

～下記は上級者を目指す方向け。～

上記で説明した、3.「受けの広い」形を組むようにする。と4. 消した後のフィールドの状況を把握できるようにする。の二点が暴発回避方法と関係が強いです。

まず3の項目ですが、「色拘束」と「色依存度」について。右図は後折で GTR を作成しようとしています、「赤黄」の組み合わせ以外では単色で1つつ入れていくしかありません。かつ緑の露出部分が多いので組み合わせは限定されます。

「その場所に配置できる色数の自由度」が少ないため、「色拘束が強い」と言えます。また、折り返しや連鎖尾を作成しようとした時、赤色の個数が極端に多い状況。「ある色の依存性が高い」状況は「色依存度が高い」と言えます。この二点を理解することにより不要ぷよを減らすことができ、かつ暴発も少ない安定した連鎖の構築をすることが出来ます。



4は、パターンが豊富なためざっくりした説明になりますが、残ったフィールドと NEXT を照らしあわせたときに設置できる箇所はあるだろうか？といった意識。

妥協発火やギリギリの対応をする、など際どい場面だと回避しづらいですがこういった意識は後々役に立つので、少しずつでも意識していくべきです。

○目指す方向性は

一見不要に見えるぷよでも、冷静に辺りを見渡してみると不要などでは無かった、という状況はよくありえます。しかし不要ぷよを捌く際、迷いや無駄が出てしまうと、後の影響が大きいです。

置く場所に困って手が止まってしまうたり、極端に凸凹な形を作ってしまうたりして全体の形が不安定になってしまう、という状況が一番良くありません。

遠回りにはなりますが、一手一手をよく理解し様々な視点から考察できるようになっていきましょう！